

# 防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成20年度病害虫発生 予察防除情報第4号

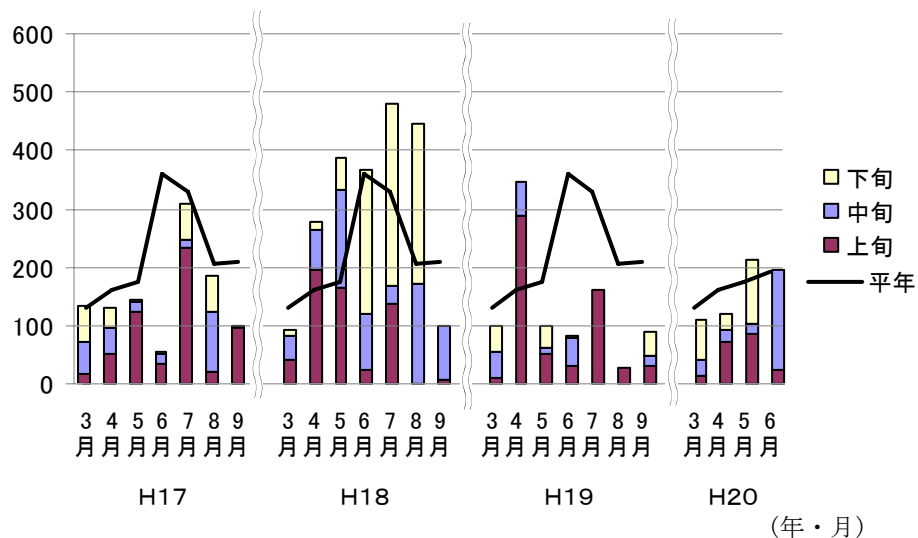
## いちご炭疽病の防除対策について

いちご炭疽病が育苗床で発生しています。また、雨の日が続いている状態ですので、下記の点に留意して防除指導をお願いします。

### 記

#### 1. 発生状況等

- (1) 依頼診断において、イチゴ炭疽病菌 (*G. cingulata*) を分離し、5件発生を確認している(6月19日現在。過去同時期の確認件数は H19 1件、H18 6件である)。
- (2) 6月上旬の巡回調査(33筆)では、炭疽病 (*G. cingulata*) の発生は認めなかった(平年の発生圃場率1.1%、発病株率0.1%)。
- (3) 病害虫防除員による調査においても、依頼診断の圃場以外で本病の発生が報告されている。
- (4) 梅雨入り後、比較的強い降雨がたびたび観測されている。また、6月1日～19日までの降水量は平年並であり、本病の発生が少なかった平成19年と比較すると多い(図)。
- (5) 6月17日以降、長崎海洋气象台における日最低気温は本病の発病適温20℃以上を上回り、発病に好適な温度条件となっている(最適温度25～30℃)。
- (6) 気象予報では向こう1週間は梅雨前線の影響で曇りや雨となり、降水量は平年より多い見込みである。



図：長崎海洋气象台の降水量の推移

注) H20の6月は1～19日まで、平年値は6月中旬までのデータ

## 2. 防除対策

- (1) 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。降雨日が連続する場合でも、雨の合間を見て、散布時期を逃さないよう留意する。
- (2) 薬剤防除は、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後にも重点的に行う。
- (3) 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。
- (4) 高設育苗や全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上りを防止する。
- (5) 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

---

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027